

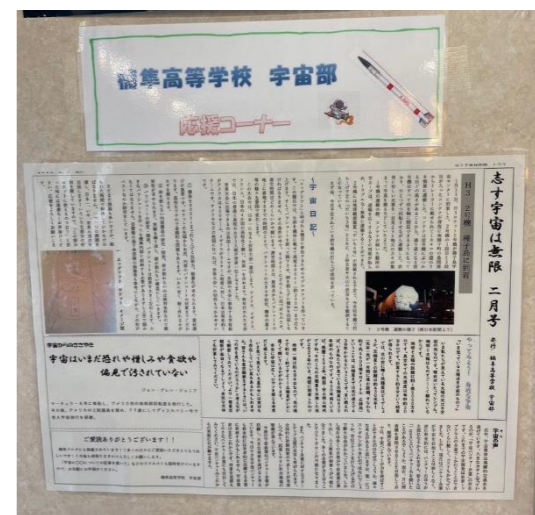
志す宇宙は無限 三月号

発行：楠隼高等学校 宇宙部

そら
宇宙の声

南日本新聞に掲載されました！

宇宙部の活動が2月4日付の南日本新聞に掲載された。南日本新聞を読んだ楠隼高校1年の田中瑛人さんは「友達の記事が大きく載っていて驚いた。一人で頑張っていて、すごい。応援し続けたい」と話した。肝付町役場からも連絡をいただき、今後は内之浦の「宙の家」にも掲示していただけることになった。部長の米満恭平さんは「今後、町民などの多くの方々に読んでいただき、宇宙の身近さを感じてほしい。いろいろな活動ができるようになっていきたい。今は部員は1人だが、来年度には新入生を集めたい」と話した。白い航空宇宙関係の催しが開催される時にはぜひ声をかけてほしい。



↑内之浦の「宙の家」に掲示されています。

H3 あと一歩というところで・・・

宇宙航空研究開発機構（JAXA）は先月17日、新型基幹ロケット「H3」1号機の打ち上げを発射直前に中止した。打ち上げ直前に電気系統の異常が検知されたため。



点火されなかった 補助エンジン

JAXAによると、H3の補助エンジン点火直前に1段目の機体制御コントローラーが異常を検知し、補助エンジンを点火する信号が送られず、自動停止した。コントローラー内の半導体スイッチが何らかの原因でオフになったとみられ、数秒間、電圧・電流が落ちたと説明した。搭載された衛星や地上設備には損傷はない。

打ち上げを教室から見ていた楠隼高校1年の古里鳳真さんは「打ち上げが中止され残念。打ち上げてから問題が生じなくてよかった。無事に宇宙へ旅立つ日を楽しみにしている」と笑顔で話した。H3はH2Aの後続機として開発が進められている。当初2020年の打ち上げを目指していたが、メインエンジンの開発に時間がかかり、2度延期された。将来的には50億円での運用を目指している。1号機は開発費として2000億円かかっている。

倍率 2000倍 狭き門を突破したのは

先月28日、宇宙飛行士の選抜試験に2名が合格したと発表した。合格したのは最年長での合格となった、世界銀行に勤める46歳男性と最年少での合格となった、日本赤十字社医療センターの外科医の28歳女性。14年ぶりに新たな宇宙飛行士が誕生した。

今回の選抜では、理系大学4年制を卒業していなければならないという出願条件が廃止され、学歴不問に変更された。また身長や体重などの身体条件も緩和され、出願可能な幅が広がった。過去最多となる約4000人が出願し、倍率は2000倍。書類審査から学力検査、医学検査、プレゼン能力やコミュニケーション能力をみるテストなどが約1年間かけて行われた。

ニュースで2人の会見を見ていた楠隼高校1年の堅山陽太さんは、「初の文系宇宙飛行士が誕生するのかと期待していた。文系では難しいのか。文系志望なので初の文系宇宙飛行士になりたい」と微笑んだ。

今後はアルテミス計画にも加わる予定で、日本人宇宙飛行士として初めて月に上陸する可能性もある。大変な職業ではあるが、日本だけでなく世界の宇宙開発の先駆けとして誇りをもって頑張ってもらいたい。健闘を祈っている。

宇宙からのささやき

雪、見えるかい、地球だよ。 あれが僕たちの地球だよ。

古代進の台詞

宇宙戦艦ヤマト 第26話「地球よ、ヤマトは帰って来た！！」より。古代進が森雪の遺体に地球を見せている場面。

漫画家の松本零士さんの名作。ほかにも「銀河鉄道999」なども生み出した。

ご愛読ありがとうございます！！

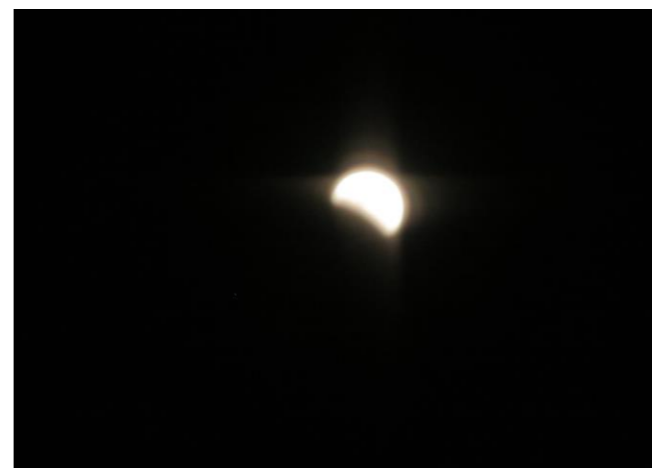
南日本新聞に掲載されました。宇宙部の活動が県内の方々にも伝えることができ本当にうれしいです。今後も頑張りますのでよろしくお願ひします。

肝付町役場の方からも連絡があり、内之浦の「宙の家」に掲示していただけることになりました！

楠隼高等学校 宇宙部



2022年11月8日の月食の様子。天王星食とのダブル天体ショーとなった。(左：丸本翔太郎さん 右：米満恭平さん)



ベストショット わたしの一枚
新コーナー「ベストショット わたしの一枚」では、皆さんが「宇宙」を感じた瞬間の写真を紹介します。(印刷上、不鮮明になることがあります。)

皆さんの投稿をお待ちしています。

「別れ」とは誰もが経験するものです。3月は卒業式、人事異動等があり、親しかった仲間と別れなければならないことも多いでしょう。私は小学生の頃、奄美大島に住んでいました。奄美大島では大学進学や就職、人事異動などで島を離れる人が多いです。出発式には島の方々が集まり、盛大にお見送りをします。船で島を出るときには、夜の出発にもかかわらず、紙テープを引いて船が見えなくなるまで大きく手を振ります。各々、最後の時間を楽しんでいきます。島の方々が「人を愛す」この文化には本当に感動しました。

天文学でも「別れ」を告げなければならぬことがあります。先月、「ZTF彗星が地球に接近しました。接近は約5万年ぶりと考えられています。しかし、元々の軌道から変化しており、今後は太陽系から離れ、二度と戻ってこないとされています。それも、何万キロどころではありません。

しかし、現代では情報通信技術の発達により遠く離れていても電話だけでなくビデオ通話も可能になりました。時間や場所を問わず、つながることができます。

同じ時間を過ごした日々は人生の大きな財産になります。「別れ」というものは寂しいことだけではありません。きつと、新たな地でも、ZTF彗星のように輝き続けるに違いありません。高校3年生にとって、楠隼での6年間は最高な6年間であったと思います。それぞれの道で頑張ってください。ロケットは前にしか進めません。人生も前にしか進めません。